

記事を読んで、問いに答えなさい。

309試合アジア勢最多出場

◆サッカー
◆ドイツ1部
【ベルリン共同】サッカーのドイツ1部リーグで6日、アイントラハト・フランクフルトの長谷部誠（藤枝東高出）はホームでのマインツ戦にフル出場してリーグ通算309試合出場とし、1970〜80年代に活躍した元韓国代表の車範根を上回ってアジア選手最多出場記録を樹立した。Eフランクフルトの鎌田大地もフル出場。試合は0-2で敗れた。36歳で元日本代表主将の長谷部は、J1浦和から移籍したウォルフスブルクで2008年2月に1部デビュー。ニールンベルクを経て14年夏からEフランクフルトでプレーする。今季は主に守備的MFやセンターバックとしてチームの中心的な役割を担っている。

長谷部 勲章も悔しい黒星

記録を塗り替えた一戦は悔しい黒星となった。アイントラハト・フランクフルトの長谷部はクラブ公式サイトで「自分たちは本来あるべき姿ではなかった。何が欠けていた。残念」と悔しがった。ドイツ1部のアジア選手最多出場記録を達成した感慨はなかった。前半43分にCKから先制点を許すと、後半32分に長谷部が相手と競り合った球を拾われ、痛恨の2点目。



「何か欠けていた」

効果的にゴールに迫れず、新型コロナウイルスによる中断からの再開明け6試合目で初めて無得点に終わった。長年主将を務めた日本代表でも、クラブでも勝利を第一に考え、求められる存在であり続ける。車範根の出場記録に並んだ際も「自分の記録はあまり興味はない。チームが勝つことに、これまでも、これからもフォーカスしていきたい」と役割の一つだ。（共同）

- ①見出しの「長谷部 勲章」とは何を指すのか。
()
- ②長谷部選手の自分の記録に対する考え方がわかるところに線を引きなさい。
- ③日本代表やクラブで長谷部選手が求められているのはどのような存在か。
()
- ④記事を参考に、「期待され、求められる存在」になるために必要だと思うことについて、あなたの考えを書きなさい。
()

年 組 名前

解答例

記事を読んで、問いに答えなさい。

サッカー

309試合アジア勢最多出場

マインツ戦で競り合うEフランクフルトの長谷部誠(左)。アジア選手単独最多となるドイツ1部リーグ通算309試合出場を記録したEフランクフルト(API共同)

◆ドイツ1部
【ベルリン共同】サッカーのドイツ1部リーグで6日、アイントラハト・フランクフルトの長谷部誠(藤枝東高出)はホームでのマインツ戦にフル出場してリーグ通算309試合出場とし、1970〜80年代に活躍した元韓国代表の車範根を上回ってアジア選手最多出場記録を樹立した。Eフランクフルトの鎌田大地もフル出場。試合は0-2で敗れた。36歳で元日本代表主将の長谷部は、J1浦和から移籍したウォルフスブルクで2008年2月に1部デビュー。ニールンベルクを経て14年夏からEフランクフルトでプレーする。今季は主に守備的MFやセンターバックとしてチームの中心的な役割を担っている。

長谷部 勲章も悔しい黒星

記録を塗り替えた一戦は悔しい黒星となった。アイントラハト・フランクフルトの長谷部はクラブ公式サイトで「自分たちは本来あるべき姿ではなかった。何が欠けていた。残念」と悔しがった。ドイツ1部のアジア選手最多出場記録を達成した感慨はなかった。前半43分にCKから先制点を許すと、後半32分に長谷部が相手と競り合った球を拾われ、痛恨の2点目。



「何か欠けていた」

効果的にゴールに迫れず、新型コロナウイルスによる中断からの再開明け6試合目で初めて無得点に終わった。長年主将を務めた日本代表でも、クラブでも勝利を第一に考え、求められる存在であり続ける。車範根の出場記録に並んだ際も「自分の記録はあまり興味はない。チームが勝つことに、これまでも、これからもフォーカスしていきたい」と語った。この日のように、ドイツで主将マークを奪うことも珍しくない。リーグ3連勝を逃しただけでなく、15位のマインツに取りこぼしたことで残留争いは気の抜けない状況が続く。10日にはドイツ・カップでバイエルン・ミュンヘンとの準決勝がある。過密日程で踏ん張りどころを迎えたチームを背中で引っ張るのも、長谷部の重要な役割の一つだ。(共同)

- ①見出しの「長谷部 勲章」とは何を指すのか。
(**サッカー・ドイツ1部リーグでアジア選手最多出場(記録)**)
- ②長谷部選手の自分の記録に対する考え方がわかるところに線を引きなさい。
- ③日本代表やクラブで長谷部選手が求められているのはどのような存在か。
(**(例) チームを背中で引っ張る存在**)
- ④記事を参考に、「期待され、求められる存在」になるために必要だと思うことについて、あなたの考えを書きなさい。 **(例)**

**自分のことよりも常にチームのことを最優先に考え、行動すること。
ピンチでも、チームを背中で引っ張るような言動を心がけること。 など**

年 組 名前